

多言語コミュニティ通訳ネットワーク(mcinet)

Multilingual Community Interpreter Network

第3回事例検討会

日時：2月3日(土) 14時半～17時

場所：立命館大学アカデミア@大阪(淀屋橋)

大阪府大阪市中央区北浜3-1-18 島ビル7F

地下鉄淀屋橋14番出口上がる

テーマ：「生活保護にかかわる通訳」

アドバイザー：道中隆

(堺市保健福祉局理事、桃山学院大学社会学部講師)

申し込み：mcinet2006@yahoo.co.jp

共催：立命館大学人間科学研究所

事例検討会とは？

目的：通訳事例を通して、通訳者の対応や通訳者を取り巻く環境について考えていくことで、コミュニティ通訳者の質の向上を図るとともに、通訳環境の整備を目指していきます。また、多言語コミュニティ通訳の専門性が身につくシステムを構築していきます。

テーマ：通訳業務、通訳倫理、通訳条件など通訳場面に関わる全て。

mcinet 活動内容

事例検討会：コミュニティ通訳現場での通訳事例を、専門家や経験者とともに検討していく会です。2ヶ月に1回、偶数月に開催予定。 場所：立命館大学アカデミア@大阪(淀屋橋)

研修会：会員の皆様の要望を聞きながら企画していきます。

ブログ：<http://mcinet.blog57.fc2.com/> 団体の活動案内や通訳に関する情報提供を行います。

mcinet コンセプト

mcinet は学校や行政窓口、相談機関などの対人援助的場面での通訳を行う通訳者のネットワークです。日本にいる外国人は、外国籍や言語文化的マイノリティというだけでなく、児童と保護者、DV被害者、高齢者など生活人として多様な立場を持っています。外国人と専門家及び地域社会がより良いコミュニケーションを行えるように仲介を担うことにこの分野の通訳の特徴が挙げられます。

この団体を構成する会員は、国際交流協会の相談員や教育サポーター、福祉事務所や職業安定所の通訳者、また、NPOやNGOの通訳者、通訳ボランティア、同様な活動をおこなっている個人などです。さらに、この分野に関わる研究者やコーディネーターの参加も歓迎します。

mcinet は、このような多種多様な通訳者及び通訳に関わる者が、お互いの立場を超えて繋がりあうことによって、情報交換を行い、その個々の立場により抱えている様々な問題を解決する糸口を見出し、多様な場面における通訳の専門性を確立することを目的とします。

連絡先

共同代表 飯田奈美子・尾上皓美

mcinet2006@yahoo.co.jp

共同代表者プロフィール

飯田奈美子（いいだ なみこ）

京都市福祉事務所 中国語通訳者。

大学卒業後、中国北京大学漢語中心に留学、その後北京の日系ホテルに就職。

日本に帰国後、2002年から現職に就き、主に生活保護分野の通訳を行う。対人援助場面における通訳環境が整っていないことに問題意識を持ち、2005年秋に設立したパブリックサービス通訳翻訳（PSIT）学会行政通訳分科会長としても活動する。通訳業務の傍ら、中国帰国者における支援についての研究も行い、2006年立命館大学大学院応用人間科学研究科修士課程修了。現在、立命館大学人間科学研究所オープンリサーチセンター事業社会臨床プロジェクト研究員 主な著書：「行政通訳者がみた社会—中国帰国者の実像から見えてくるもの—」『現代の社会病理』No.20/2005

尾上皓美（おのえ ひろみ）

中国語通訳、「くろーばー」事務局長。

慶應義塾大学卒業後、商社勤務、中国留学を経て、2000年から（特活）多文化共生センター大阪職員として在住外国人対象の生活相談、通訳コーディネートを担当。2002年10月退職後も、ボランティアスタッフとして同センター相談業務やDV関連事業を担当。2003年5月くろーばーの前身である「外国人DV被害者支援ネットワーク・おおさか」を設立し、外国人DV被害者のための相談事業、通訳翻訳事業、通訳者養成事業等を実施。現在、くろーばー事務局長、相談員、移住労働者と連帯する全国ネットワーク「女性への暴力」プロジェクト運営委員。

フリーランスの中国語通訳者としても法律や生活支援分野を中心に活動しており、通訳者養成にも力を入れている。2005年4月から、仕事の傍ら、大阪外国語大学大学院言語社会研究科通訳翻訳学専修コースに在籍、「DV被害者支援通訳者」の養成について研究している。